「本当の友達想いとは」　　　福井市至民中学校　２年　鹿島　菜々（かしま　なな）

「これでもいい。」「うん。それでいいよ。」私には昔から、人に意見を合わせてしまう癖があります。そうしないと、その人に嫌われる気がして、すごく怖いから。だから、私は自分の気持ちを胸の奥で押し殺して人に意見を合わせます。時には、ただ相づちを打つだけのことさえあります。そうすれば、きっと嫌われることはないだろう、ずっとそう思ってきました。

中学校に進学して、小学校の時よりも友達関係を気にするようになりました。友達の機嫌を損ねないように今までよりももっと気を遣い、出来るだけ笑顔で「合わせるよ。」「何でもいいよ。」と言うことが増えていきました。そんな私は、どんどん優柔不断になりました。「これでいい。」「こうしていい。」と自分の意見を言うときにさえもいちいち友達に確認するようになりました。そうすれば嫌われることはない。私は友達が身の回りからいなくなって、一人ぼっちになることがただ怖かったのです。だから、相手の意見を断れず、断る勇気もありませんでした。そんなことがずっと続き、自分の思い通りにならないことが、どんどん増え、このままでいいのかなと感じるようになりました。何より、友達の意見をいつもそのまま受け入れる自分に腹が立つようになっていったのです。

そんなある日、テレビでたまたま見ていたワンシーンが私の心を引きつけました。「この商品は、自信をもっておすすめします。いかがでしょうか。」店員さんが一生懸命に商品の説明をして相手に勧めているのを見て、私はきっと買うんだろうなと思いました。なぜなら断る理由もないし、何より一生懸命に説明してくれた店員さんに失礼だと思ったからです。しかし、説明されたお客さんの返事を聞いて驚きました。「この商品は素敵なのですが、家に似たような物があるので、やめておきます。」ときっぱりといったからです。それに対して、店員さんはがっかりするどころか笑顔で「そうなんですね。分かりました。またお願いします。」と答えていました。その様子を見ていた私は、心のモヤモヤが少し晴れたような気がしました。今までどうしたらよいか悩み、自ら決して行おうとしなかった友達の意見に対しての断り方が何となく見えてきたからです。相手の意見を聞いたとき、その良いところをちゃんと伝えた上で、自分の考えを話して断ることができたら、友達は気分が悪くなることはないのだと思いました。そして、そうすることが私自身はもちろん、友達のことも大切にすることだと思ったのです。

それから、私は友達にしっかりと意見を伝えようと心がけるようになりました。そうしているうちに、友達と過ごす毎日はもっと楽しくなり、学校生活がより充実した日々となってきたのです。もし、あの時のテレビで今までの考えや行動を見直さなかったら、今も一人ぼっちを怖れ、友達に意見を合わせて学校生活を送っていたでしょう。そして、そんな自分にモヤモヤしながら、毎日を過ごしていたに違いありません。

人は、気を遣って相手の意見に合わせることも時には礼儀として必要でしょう。しかし、いつも相手の意見に合わせてばかりでは、自分の考えや意見をもつことがなくなり、自ら行動できない人間になってしまいます。私も友達も今は仲良く協力して学校生活を送っていますが、いつかは自分一人の力で生きていく場面が出てくるのです。その時のために、今から私は友達に自分の想いを上手に伝える努力をしていこうと思っています。相手の意見を素直に受け入れる今までの自分と、相手の主張を聞いた上で自分の意見をきちんと伝えるこれからの自分を、両方大切にしていきたいです。お互いに尊重し合える関係づくりは、そこから生まれると思うからです。私は今、友達と話をする時に友達の考えをよく聞きながら自分の意見と照らし合わせ、想いを伝えるようにしています。それこそが自分と相手、両方のことを考えられる真の友達想いへの第一歩に違いありません。